



畧譜

白須

衣

衣田

設樂

藤原

藤原

白戸

白井

二百十一冊

庫	文	閣	内
三	三	三	和
六	六	六	書
八	八	八	類
八	八	八	類
架	冊	號	類

一九一〇

藤原

藤原

藤原

重田

内	閣	文	庫
番	號	和	36085
冊	數	211	(190)
函	號	156	17

120

清原在清

教樂

菅原姓

家紋

梅折
五七桐

言或子百五平石

記録御用所



貞重

清原在清在任天文六年

菅原道真二男豊後守言親分出教樂
彈心大御貞衝二男左馬頭清分十代
後胤設示郡川路城之左之助貞長男

雅樂助

神三郎

廣忠若勢州より畠山城へ涉入馬と御是後
ついで石山寺にて天正五年三月十二日死す
七十九歳葬地不知

貞道 越中守 祐三郎

東照寺津代務令。永禄六年一向宗一揆
の内居城と云く信州境を以り畠山の
津城と相傳ふ。元龜三年津方原を

武田信玄と小倉義の時に居城より
二男市左衛門と傳へて信州城へ出
○信玄三男野田城へ居御す津波と云
野田の城と傳ふ。○天正二年五月三
州を藤と云く武田勝頼と津合戦乃時
酒井左衛門尉と一多と云く勝頼と居向
城より入る首代なる同月信州に押
命を以てす。○前同寺小左衛
○奥平為能守津味方より入る時三

又後末郡川治村の庄殿と云々
惣領として駿をあるの内と越中さふ
御入。慶長元年十二月廿七日死す
三景家地志より

貞清

去庫氏 林三郎

天正十年 若谷

大徳院殿信州新府津敷陣の能存。同

十二年尾別長久寺津陣能存。同
大
年小田原津陣能存。同年武別
の目少く二子百五十石孫氏
旧記ニハ五石云々
孫氏とあり
寛永八年二月五日死す年七歳武別
羽生殿馬内村園寺香積寺より葬る

貞慶

三男
四郎去清

元和二年駿河少く石出せり三百石と

御入頼宣之（附）二代目重右衛門貞
周宣文年召杉平左衛門重子（附）
たり子孫今も在り

貞刻

三郎左衛門

親お宰相忠昌よはへ二首五平石と願
故浪人。成元祿七年六月柳澤お羽
取居。ふつと子孫今も相續

貞光

初貞代

甚三郎

祐三郎

此所の文字と
甚の文字は同じ

若くは又年寄合

台徳院殿所上洛侍年。同十九年大坂
冬御陣侍年。羽立年夏御陣の時を
命よ依て侍見候立寄。遠見侍行。
て正月二十御遠初の時迄。又文十八
年杉平左衛門代。一し。若くは又上

きりこしん 志茂の次男 左近将殿八郎
三郎康定 松平又七郎 政忠 松平甚右
郎 義春 松平 弘九郎 景忠 松平又八郎
伊忠 ○右近 没 景甚三郎 貞光 西郷
孫九郎 政貞 松平 源次郎 親乗 松平
源七郎 康忠 松平 与次郎 親善 松平
丹波守 ○康長 慶長九年

萩光 源七 救 清 祝 儀 の 事 志 茂 将 殿
上 総 舟 殿 没 未 甚 三 郎 貞 光 松 平 伊 豆 守

西乃出羽守 松平 左馬允 小笠原玄 弘 左 捕
松平 弁 紀 松平 丹波守 水戸 市 山 小 笠 原
左 衛 門 佐 牧 野 右 馬 允 在 多 伊 勢 守 松 平
周 防 守 ○ 寛 永 二 年 十 二 月 十 日

台 徳 院 殿 御 朱 印 御 入 ○ 同 十 一 年 房 州 佐
賀 加 番 々 勤 ○ 甲 州 八 村 加 番 ○ 同 十 二
年 六 月 廿 二 日 死 五 十 一 歳 同 守

貞辰

二男 惣辰

甚三郎 之馬

後任貞辰

寛永七年月日初見。○大正性組。同十一年
御上洛侍奉。○同十八年十二月六日。御
甚三郎上段。○寛文三年正月十日。御
○同年四月日。先社系侍奉。○延宝四
年正月十日。御侍奉。○天和元年三月
廿七日。病歿。○同二年五月廿九日。後任侍
奉。○同二年三月。御侍奉。○同二年五月。

年二月廿八日死七十歳同子

二男 惣辰

甚三郎 之馬 右近

貞成

甚三郎

寛文三年十月廿六日初見。○同七年
十一月廿一日。御侍奉。○天和二年五月
廿九日。御侍奉。○同二年三月。御侍奉。
○同二年七月。御侍奉。○同二年七月。御侍奉。
○同二年九月。御侍奉。○同二年二月。

女六白木書院為○正徳四年四月病歿小
老多信○享保四年二月十六日死六十九歳
回寺

貞親

助右馬廐 實没樂社元吉男

享保七年七月に於て病歿す。其時年六十九歳。其時死す。其時年六十九歳。其時死す。其時年六十九歳。

貞英

其子郎

其子郎

其子郎

實大久保孫五郎雪久二男

享保四年十一月十八日葬其子○同六年
四月六日小姓組○同年四月廿八日葬其子○

元文二年十一月二日死六十九歳回寺

貞好

其子郎

其子郎

其子郎

實大久保孫五郎忠時二男

享保七年十二月八日葬其子○元文三
年十二月廿七日葬其子小老多信○同四年
六月七日小書院為○實保元年十二月
十日大坂木目貞代○延享二年十月

十八日不使番回月十八日布衣。○同三年
八月六日駿府水目付。○宝曆元年十月
十日上総國勝浦村古法上地急水
使水地。○寶曆八年六月廿八日小島信
組支配。○明和八年五月廿日民部之敷
表免同年十二月十八日叙壽吉庫次。○
安永五年九月廿一日病免。○同
七年十二月十二日叙位將五等。二百後
卷免料了。賜入。○寛政九年十月

廿四日死。八十九歳。同寺。

甚十郎 徳之助

貞周

初貞仰

延享四年八月廿八日初見。○安永二年
八月三日小姓組。○安永五年一日老成
社系修存。○同七年十二月十二日家修
○同九年八月六日死。四十八歳。同寺。

貞長

長三郎 主水 五馬

亥貞好七男

安永九年十一月四日吉野養子家傳小
並傳信。天明六年正月二日初見。寛
政六年三月廿一日中里身。上院。○
同年八月廿六日小納戸同月廿七日
長三郎。同年九月。了。

若君附。同年十二月十六日布衣。寛政
七年十二月九日龜背筋。成木。了。
為射。同。了。了。了。了。

東照宮御代

設樂

高子屋石

菱原姓

家紋

十文字 菱原
五七桐

設樂越中守貞道二男

貞信

市五番

東照宮御代より奉仕尾長久寺御陣
小田原園ヶ原大坂冬御陣等此御代
酒井左衛尉より奉仕御代。大坂夏

伊陣の付いた城を奪ふ。年月父紙中
元順知三の必設系部の内少く兼地七
百名約り。伊集原と取裁。奇合。正保
二年六月廿二日死。七十八歳。三田大守。
了。葬。

貞治

勘右衛門

年月尾張殿進初高。石出。九。音

石を領守。子後病。よりて。親系。七。郎
知行。而へ。能居。寛文。五年。七月。廿。日
武別。多。積。年。了。葬。

貞政

肥前守 市左衛門 甚之助

寛永十三年八月 日不初見。同十五
十一月八日。書院書。同十八年六月廿八
日。水。性。組。正保二年十二月 日不家傳。

寛文三年 日光小宮刺御用 ○同八年
三月六日 虎之門 西宮宿 年約 同年十一
月 齋令 三枚 時辰 二羽織 七物 入 ○同九
年 十月十八日 西宮改令 五枚 ○同十二年
六月 吉西 使者 ○同年 八月十九日 日光
六日 月 ○延宝二年 二月六日 紀基 西宮
付 同月 廿八日 西宮 ○同三年 二月十九日
日光 六日 月 ○同四年 十二月十九日 日光
六日 月 ○同年 三月 廿六日 南於 杖田 論不

見 分 御用 西宮 同年 五月 十八日 西宮 ○同
六年 四月十九日 日光 六日 月 ○同七年
六月 十日 大坂町 年約 加 授子 石 同年
十月 廿五日 叙 壽 ○天和二年 十二月 十八日
参上 拜 謁 ○同三年 十一月 十六日 西宮 ○
貞享二年 七月 十二日 参上 拜 謁 ○同年
十二月 廿二日 二男 同姓 助 在 西宮 小姓 相 知
有 一 伏 不 知 本 爲 長 門 寺 卜 禱 了 事
よ 一 一 七 遠 意 同 三年 五月 八日 遠 意

宗亮宗令○元禄四年二月廿日死享年八歳
三田大系寺葬

貞奥

市左衛門

源右衛門

寛文九年六月十日初見○延宝六年
二月廿九日小性組○同八年三月廿九日
原米二百俵納入○貞享元年正月
廿六日進物也○同年十二月廿七日

八年皆勤令子取○元禄四年七月廿
日、志名子七百石○同七年助右衛門ト三百石
多也○同六年十二月十二日死享年九歳
同寺

貞親

助右衛門

元
高
助

延宝二年二月廿八日初見○天和三年
四月二十日同本為原米三百俵○同

年八月廿又日小納戸。○貞享元年八月
 月首小姓。○同二年二月十日小普信入
 ○同年十一月十七日牧野傳後寺宅少々
 小普信作付。○同年十二月廿二日阿部
 宅後寺宅。於て本為長門寺上納。○
 ○貞享四年八月十日小頭清之。○元禄
 四年七月廿一日知三首石。同八月二日
 小普信。○同八年三月十八日小普信院
 番。○同十四年正月廿五日同姓設茶甚云

清貞成彰。○同七月廿日普信子
 方。○宝永四年九月廿日早五家
 同寺。○新入。○同廿日。○成統

貞高

普信

於江
高心

二亥肥前子貞政三男

天和三年十一月十二日初見。○同七年七
 月廿日養子。○同廿日小普信。同八年八月

十百終日也礼○同土年二月十八日也小
性組○同十二年九月十八日少事場目月
○同十七年三月十日屋浦改○室永也
年十月十八日也礼改同十二月知不布衣
○正徳二年八月十二日病免寄命○享保十三
年十二月廿五日改仕○同十九年六月朔
日死六年九歳麻布法雲寺葬也

貞根

善左衛門 氏部 子 孫 郎

實大是王教忠品二男

享保八年十二月十五日葬卷子○同十
二年十二月廿五日安葬小善寺○同十三
年三月廿五日初是○同十四年三月廿七
日書院高○同十九年十二月十三日改
水目村代同二十年正月廿八日也同孝
十月朔日物濁○元文四年十二月十五日

同組与改。同年十二月十六日布衣。宝曆三年十一月朔日新成。同八年四月十五日小菅信组。同和八年八月廿六日死。七千六。同寺。

甚哉

貞曠

宝曆九年十月廿一日初。同十二年九月廿八日。同和六年七月

同和六年九月廿九日。法雲寺。

吾友也 彈正 吾友

貞猶

同和六年八月。同八年八月五日。同九年九月七日。同九年正月。同九年十二月十八日。天

三年十二月廿二日大坂水自月代同日卒
同正月十五日亦歿同年九月朔日
○同六年二月廿二日死年三十三田大
宗寺葬

氏三郎

貞智

实青木甲斐守一實四男

天明二年十二月廿九日薨子○同六年

八月十日家抄小重信○寛政六年
五月廿七日死年三十三葬同寺

貞丈

貞之助

寛政六年八月三日歿智小重信○
同年十二月廿二日初見

卷有院殿清代



設樂

百五十年儀

菅原姓

家紋

梅折
十六葉菊
隅切角内横木凡

設樂越中守清廣四代孫長玄傳

業二男

長玄傳

能乘

寛文四年

月日
五和

石出寺北本勘定庶末

百五十年儀。延宝二年

月日
不和

北勘定之組次

御旨に是勤致中ありし二百儀加撰
有り。元禄七年四月十八日死年不詳
受祀云寺より發

茂雅

長五郎

實徳宗元某二男

養子。元禄七年七月五日家傳小
當信。同十八年八月十日大出處。

宝永三年七月廿日新出處。享保十
年八月十日大出處。同十九年
九月十日病歿。小當信。寛保元年
八月九日大出處。同年十二月廿八日大
出處。少く死發地不詳。

張賢

長五郎 内記 定右

實徳宗元某二男

養子。寛保二年十二月廿六日家督小
菅信之延享二年六月二十日小菅信小
死組次。宝曆五年十二月廿六日相和配
多賀又希出奔。附取汁方不立。日
小菅信入道。寛保六年四月廿八日通
塞。神元。同八年八月十七日死。七十一歳
浅原祝云寺葬。

紙抄

大助 又七

实过五郎左衛門盛居四男

養子。宝曆八年十月四日家督小
菅信。明和四年九月十六日死。五十
歳。同寺。

紙荷

十郎左衛門

玄吉

明和四年十月四日家督小菅信。○安永九
年二月八日大所番。○天明四年六月七日
新大番。○同七年八月三日病乞小菅信。
年月日大所番。○大所番。○大所番。○大所番。
彈願。○大所番。○大所番。○大所番。

東照宮御代

設系 高二百石

菅原姓 家紋 梅評

設樂之庫以貞清二男 子七相 十六世重定

貞時 三右衛門

元和元年破府、在越卯辰為年相傳
東照宮へ在湯比布武州入回形、内少々
采地、音名、揚入。

台徳院殿附水書院高○水小性組○病急
小菅信○寛永十五年月日死葬地不知

貞勝

三十九歳

大徳院殿河内家信水小性組○病急小
菅信○元禄十三年八月廿日死七
十歳葬山玉窓寺墓

貞則

市十郎

元禄六年十二月五日水書院高○同
七年正月晦○音信初入○同十三
年十二月九日水書院高○同
○同十六年五月七日死葬同寺

貞長

三友集 專之助

角兵衛

実同姓三友集の貞朝男

養子。元禄十六年七月廿五日歿。小
菅信。正徳四年四月二日歿。流寓。

元文元年八月廿日歿。本膳奉仕の延喜
二年九月初日

大御所附。同日年五月日。病歿。小菅信

寛延元年八月十日歿。被仕。宝曆七年

四月廿日歿。七年一某同寺

貞一

三友集 源之助

寛延元年八月十日歿。被仕。小菅信

同年九月廿日歿。小菅信。宝曆四年

四月廿日歿。十二年同寺

貞暢

市十郎

宝曆四年七月五日家督小菅清の
和九年九月十九日死二子五歳同

貞廣

三太夫

三三郎

実貞長二男

明和九年九月五日家督小菅清

貞正

佐源次

実天野佐左衛門権好二男

安永七年同七月十八日葬養子
八年十月六日家督小菅清
同九年
二月廿八日水書院書

老有流教津代

設樂

菱原姓

高三百八十俵

家紋 梅坪
十六葉菊

北條氏直了仕へし河村市正後政孫戸
塚与在るつ後春二男

正勝

七九出

兼應三年 月日
不知 兄役末勤左出つ徳勝

勤左出つ徳勝の
家八倍より徳勝云 弟より新より石出より

唐米百石千俵得りり
 ○大勘定組に加祿百俵○延宝八年
 津原諸組に○天和元年大勘定加祿
 二百俵○元禄二年同正月三日大坂五
 道遠之助同正月九日大坂五道
 おりゆりり加祿二百俵と收云々
 小勘定よりり○同九年十二月七日
 ○同十三年三月二日死年九歳
 今秋千石院より發

正秀

七歳三歳

実同姓勘定よりり
 養子○初見○延宝二年
 ○貞享三年
 年
 十三年七月十日死年九歳同寺

正篤

森之傳

檢之助

承女 檢任

初見○元祿十三年十二月九日家督
小督信○正徳三年六月十六日少子
組○享保三年五月十日新由島○同
十二年四月六日拂方令年約○同
七年二月十日大坂令年約○元文三年
四月六日病死小督信○寛文二年二月

廿九日發任○宝曆五年三月十日死六
十六歳同寺

正凝

七左衛門

豊五郎

元文三年六月廿三日男惣領○寛延
二年二月廿九日家督小督信○同三年
三月十九日初見○同年五月三日大由島
○年月の大的上院阿波二○安永二年七

月十七日田安郡年約。天保四年四月
女子田安用人物。同年十二月七日死
卒年同寺

正信 七卷

初之。天保四年十二月廿六日亥時小
善信。寛政二年十月三日死。卒七歳
同寺

正通 要古郎

寛政二年十二月廿四日亥時小善信
。同三年十二月十五日死。十八歳同寺

正通 八卷之助

実中初侍左衛門正信二男

寛政四年閏二月日巻子成徳山書

信

在思之御代

設樂

高百五十俵

菅原姓

家梅
梅坪
横本丸花菱

設樂城中清廣代之三別役樂部

夏目村之信一設樂氏家名手清廣一男

沖之郎清政ハ小幡氏照ノ仕子也

其ノ能重も甲ノ氏照ノ侍ノ。其ノ

八王ノ落城ノ所ハ海ノ邊ノ所ニ在リ

嫡男

能業

長玄傳

東照宮上 武元八王子少く不出九廣米
百平儀と御公代友命也建佐
清敏没國東と純すも首は七八王子
了信居○正保四年三月十日死年
八歳八王子身福也と云々

能真

授玄傳

正保四年月日不知父正没也と云代友○寛
文七年三月廿日死年四歳同寺

能茂

孫玄傳

寛文七年三月廿日首没也と云代友
○元禄十三年四月廿日死年七歳同

孝從言寺家

光能

孫玄博

元祿十三年四月廿日父死後出勘定江
立三月廿五日少くも勘定組と記○正
徳元年皆漸く月同年五月廿日
父死後少くも勘定組と記○正
分一少くも少くも勘定組と記○正

六月十八日少くも組○享保十年五月
七日死早八歳同寺

徳談

長玄博 孫市郎

享保十年十二月廿二日家督小菅徳
同十一年正月廿八日西九少くも組○徳
二年月日少くも組○同八年九月
病死小菅徳○同六年六月十八日

代官○宝曆三年八月十四日右大臣
内番格少く小菅清○天和四年十二月
十日没仕○同七年九月十五日死○年二
歳同寺

能一

洪太郎

明和四年十二月廿日没仕○小菅清○
同六年十二月四日死○表右大臣○安

永八年四月十六日一統小菅清○天和
元年五月十六日死○表右大臣○同
六年同十月廿日死○同八年七月
廿日死○年二歳同寺

○安永三年十二月十八日没仕○表
令一枚○天和三年八月八日死○表
等不第等表紙○取綿織方巾用○表
右大臣○同六年十二月十九日同寺

能得 古物

実和因子女郎清忠之男

天明八年十月四日吉吉子家智小書信

[Faint bleed-through text from the reverse side]

清康系御代



田

中成福井
又標者哉

高子六百石

源姓

家紋

根川菊
扇角内一輪菊
又三羽
信三ノ令

田肥後守安弘丹波國水上郡小掾

庄下住居之方石金と願文安年中

禁裏守護しむるより従五位下叙る

寛正の次従四位下叙る日昇殿と稱る

或時杖出遊て河内國をゆりり遊上ノ菊

花根川梅と遊りて依る家紋と守安

田

弘の男右京左衛門安兼父老没す由
習く禁裏と守護寸安兼の男
郎安家父遺跡相續して丹波守
那は後長守安家男

安元

左郎左衛門

父安家遺跡相續丹波守より武
辺の志は

清康君関右と北津書成を頂戴す

右より一は嫡子市九郎安守と三洲
より一は安元八丹波守より北津書成

安守

市九郎

父と市九郎丹波守より

清康君命より一は北津書成
承祿の頃より

东照天皇在任の元龜二年十二月

織田信長旗下の明智日向光
秀が、天正十年六月光秀中
國毛利家攻討出陣の内中國への
遠しと不審あり相尋り光秀
武者押の伴信長京都にて一覽して
光秀やすみよりそを驚かすにせしむ
京都衣笠心忌陣多しと光秀
叛逆の執始を疑ひし。是れと
むす光秀も應じし。同日十日山崎合

戦の節討死

安次

三右衛門 五六郎

没仕
松平

弘治三年八月十九日三好家丹波元
取合し付兄安轉とす小安次十六歳
少く三好家子言ふ来一宗内友某豊
運と戦兎首二つ討死。天正年中織
田信長下知し明智日向光秀

丹波と後々何丹波元働神と云ふ
信長勢強きあり天正七年九月
十九日終つて藤吉守信と越前國府
中本村乃藤吉守定光と云ふを
三吉守安次と云ふ終つて父市九郎
安守永福の次

東照宮(奉仕)の節安次と云ふ石出と云ふ
と云ふ口波河と云ふ今成義一が云ふ
て信長并秀右藤下と云ふ如く云ふ

おりの月波は是迄急も云ふ津信と
及んぬる事あり依波と云ふ内院
少く石出と云ふ津合力米二子石出
○天正十八年相州北田原大陣津信
の時武州岩槻陣場と云ふ見分
すつと云ふ命ありたり又月岩槻陣
場の極子見分事細く云ふ守は内堀男
安村討死せしと悲傷しと和州多武
守(引巻法師)と相争つと云ふは後

上中少を存ししは山口駿河守と云
系を仕りつる有教及上系あり
安村妻懐妊九月小産あり男子出生
せし由系を仕りしは女子に
いし由は道世より交後とす
同六月男子出生
少く存仕の慶長五年圓ヶ原大陣
信春の同年日向國佐古原に城破陣
右馬政而替り候あり領地移す此所安

次領地の仕立すことの命は義孝に依り
原より赴き城内を成言の言り石取納
新奉城より無く在國中築き置り等
和正三年より信春在り此所
し御りよして領地は引渡すの由是
城あり慶長五年大和國宇治郡
来二子石取納あり。同十二年七月駿
府に信春の同十九年冬大坂西陣
の討取難事あり元和元年五月大坂

水陣管少く水子自經市項我大
坂落城水内陣以後大坂水陣の在
以我印と云ふこと同年六月十日有
年ノ水書本多依海寺と云頂載○
同年翻我仕水懸命下りて備前意
光の水刀と纏入る後東於津福寺
中たありしと云ふと命成事あり水葉水
物く安次我印早六夜と云○
寛永六年二月廿二日死八十九歳京
都一條通津福寺よ云々

安村

市九郎

東照宮(陸獨父)秀小不我傷七勢
○天正十八年小田原水陣の時我場
一知と云物了と云ひなるよそ木村
常陸舟下場、加り武州若槻と云
此村父安次也田原若槻、且秀小

細川陣中より對面し手福の御書と
奉しつゝの宛首二つ三つ付たり安次
しせし一年ありつゝの御書影ひたり
戰場より出し上六首二つ三つ付たり瑞武
者日御ありし御し時安村赤白ふ
乃の事より我具と為し給ふ七騎
敵陣へ突入りて敵三騎と付たり
かゝ敵百騎くくりに五番とて馬
より手負せり時より年二十一年

死す

小左衛門 外記

安照

父安村教弘の後祖父安次より奉り
駿府小左

東照より稱揚の永井右近ちまを祭
て近習古書流儀の慶長十九
年大坂の陣修年の同年五月

七日大坂落城河内執陣の後同年安
次の表録

名徳院殿小姓の駿府山下向付年○
寛永年中大坂使者は甲子年○
こも祖文安次大坂為年の軍功よそ
作付し終、旨大懸命あり○元和三
年、又月女石二子石の代奉下と河
内自領する○同年京兆家大坂
徳年約○

大徳院殿西丸、河内の河内整々く西丸
勤○元和八年出羽山形城を最上源
五郎義俊領地由るの河内自付し
て出羽の由ふあり○同九年本由上
野正純領地由る、自由は別宮
朝多小部とははるふあり、自由
常高の勤功と考せしれ羽織代
御入○寛永二年忠直々豊後の由
河内の由自付して考せしれ徳の

大女抱養す。さき首はく一年相後。○同
九年二月廿六日。

右徳院殿沖道令々々七根三百枚御入。
同年九月二日新親水紋水書信集約
作付。是日大目付同前。思存。々々々々
沖城早。水門。々々々々。命々々々々。○
同十年十月十八日加撰。石原実禄。字
石々々々。○同十二年。日光沖宮。水書信
集約。同十年又。年肥前。橋原一揆。の付

大目付作付。北波地。小部。々々。道中に
別水。々々々。二月廿七日。落城。後。近。系
か。水。々々。の。付。事。々々。也。々々。上。○

大徳院殿沖地界の没

歳有院殿。在位。○永徳二年二月廿六日
有馬。八。湯。治。○明暦二年二月廿七日
死。六。年。七。歳。没。多。津。念。年。々々。々々。

安勝

三友史 子代相

仁徳院殿に初見。寛永十二年三月
書院為唐米二百俵。明暦三年十一
月五日家督。同三年正月十八日齋
翌十九日令三百兩孫願。万治二年病
之小普信。及病癒令使二月海島
身能。祖文安次。大坂。水陣の節
水難。身能。勤功。思名。仁。宗。令

並作付。寛文九年二月廿六日死
享年。同。寺

安利

下総守 小丸。三。宗。一。万。代

万治元年八月八日西丸。初見。
寛文七年三月。小。性。組。同。八
年四月十八日。勤。此。時。津。形。あ。て
来。了。作。付。同。九年七月十日

二子百名家智百名ハ孝子郎在焉
安後、多知、安後、三男、持、物、利
貞、三、百、名、多、知、物、利、在、家、也、
父、安、後、の、教、育、を、受、け、て、不、和、計、○同
上、年、六、月、八、日、進、物、書、○延、享、八、年
八、月、六、日、言、教、院、教、束、心、淨、佛、教
淨、建、立、三、百、名、當、信、年、約、○天、和、元、年
六、月、十、八、日、讓、令、三、夜、時、後、二、羽、織、○
同、三、年、三、月、十、日、布、衣、約、同、年、十、二、月

女子日讓令三夜時後二羽織とゆくり
布衣年行御免○貞享元年十二月
廿七日上御讓令三夜○同三年七月廿
三日布衣書○同年十月十九日日光
六月廿○同年十二月廿八日布衣○同三
年二月十五日京大坂布衣代出願○
同年九月廿八日御湯○同四年二月廿
九日日光布衣代○同五年七月十九
日日光布衣代○元禄二年六月十九日

光武目付代○同四年六月十八日日光
目付代より日光より五日時七月六日
揚明門の賑濟不登、雷落欄干毀損
より六月廿五日幕末破損事約御付
○同五年五月廿七日濃州郡上遠友岩
杉痛死より日光より御付より同日廿八日
市所郡上城内外見よの上濃州加納
城より杉平丹波より相後地方より郡
代岩出友友より引渡同月廿八日御

福○同六年四月十九日日光目付代○
同七年正月十日西丸木為子居新起同
年十二月十二日高木紋ハ出為子居一通不
る阿守為丸一併の紋ハ移りて死
奥親の死中より遠慮ありて後子ハ
一と御付より○同年同月十八日叙
爵下総守○同十二月十五日日光目付○
同年十二月廿七日宗門改加紋○同十四
年八月廿日水紋不相意二付を意御

付通小菅信○寛永二年九月五日
死五十六歳回寺

安通

初安好

小左衛門 三吉 市九郎

天和二年七月五日初見○寛永二年
十月晦日家傳小菅信○正徳元年十
月七日向後玄徳嘉祥出仕ありし旨
○享保二年十二月自今三子石以下の

小菅信乃由ハ正月三日於出仕し
余不常白月並等の出仕と無用なる
旨しと命せらる。同日八月十三日
小菅信令取集所用○寛保三年正月
二日小菅信令取集所用出仕○同日
年九月十日死七十六歳回寺

安隆

大八

致仕
休致

實菅沼新又左衛門定尚二男

寛保二年五月廿六日養子。○延享四年十二月二日家督小菅信。○寛延二年七月廿九日没仕。○宝暦四年青女日死。五十七歳同寺。

安資

小左衛門 半助

實菅沼新又左衛門定尚三男

寛保二年五月廿六日養子。○寛延二年七月廿九日家督小菅信。○同年八月廿八日初見。○同三年九月廿三日死。二十一歳同寺。

安久

下総守 小左衛門 乙次郎 蒲翁 没仕

実左衛門之税安清三男

寛延三年十二月二日養子。家督小菅

德○宝曆七年二月十日小菅德全取
集所用○同九年四月五日西丸小姓
組○同十年四月五日二九勤○同十一年八
月三日西丸九勤○同十二年十二月十日
西丸勤○同十三年正月八日大坂目付
代西丸○同年十月五日德福○明和
六年正月十日西丸普小左衛門○同
年十二月十八日布衣○同七年正月廿
八日大坂目付代西丸○同年十月五日

德福○安永二年正月廿八日西丸普小
左○同年十月十九日大坂目付代西丸
加勤○同三年正月十日加勤西丸○同
年十二月十二日仙洞附同午二月五日西丸
同月十日院系西丸推勤○色徒西丸下
下德福○同六年十二月廿七日仙洞水
所西丸取綿掛○同七年四月五日
西丸普小○同年同七月廿九日病免
寄合○寛政元年十二月十九日院系

安長

乙次郎

真次郎

寛政元年十月十九日家信小普信
○同年十二月十八日初見○同五年九
月十八日小信組○同七年六月廿
死、卒葬回寺

安福

五六郎

寛政七年九月八日家信小普信

表有防殿沖代



店田

高田百儀

源姓

家故

店田三右衛門安勝三男

根引菊
麻角二輪菊
五三之桐

安議

又郎左衛門

三之丞

寛文九年七月十日和地百石小普
徳○同十一年九月十日大水普○貞亨
元年西書上勤儀令二夜○元禄十

十月廿六日死四十八歳而元町昌清
寺

日記

安清

如安英安要

貞亨四年七月甲子初見○元禄六年
十二月九日大出雲○元禄十一年十二月十
八日秋野○同十二年九月十二日西條本
面之水救令約より一時卒而除願

同十六年十一月大地震○同十二月
新子増廻同十七年正月晦増廻少先
○宝永三年乙丑廿一日小普請○同
年三月十日駿府西被損在約且御殿
在約少我木奉約急帯作付より同
四月廿八日少雨○同七年四月六日病
小普請○享保九年十月九日大水普
○同十二年二月十九日米地在廣米
智徳入○元文元年十月十二日新出

享和元年五月廿九日病免小督信。○
同二年四月十二日死七十一歳同寺

安信

内務助

岩水

實三浦庄左衛門直輝二男
享和十二年十一月五日養子。○延享二
年七月二日家督小督信。○同年八月
十七日一橋所屋委勤番。○同三年四月

廿八日勤番病免。○寛延三年十二月十
大友番。○宝曆四年四月八日病免小督
信。○同二年八月一日就任。○安永六
年六月九日死五十九歳同寺

安僚

隼人

之税

明和九年十二月十九日年表子。○同二
年八月四日家督小督信。○同三年

五月四日大所書○寛政四年十月三日
死五十七歳同寺

安邦

五郎左衛門 友右

天保七年二月十六日卯辰
寛政四年十二月廿五日大所書小菅信

同六年二月十七日大所書

常憲院後所代

高田信

藤原姓 家故 三引

備中松山城之左衛門守言良賢

三母植木市左衛門忠治忠願

友左衛門 又郎左衛門 新助 侍右郎

良賢

浮城松 古河内

初藤別浪人の所植木と稱す其後淺
野或部少輔と傳へし。元禄二年七

月十八日新丁右少左孫福一丸例儒者
之命世之志願米之百俵友料百俵之
賜入。同八年十月五日水迫智番。○
同十三年十月五日加祿百俵之賜入
矣孫百俵。○

寶永二年同四月十日

常憲院殿沖筆孫福之故。○同六

年二月廿一日表儒者。○同年十月十三

日祥定不動紋。○正德三年八月廿一日

病免小曾信。○享保八年六月十日死
六千石兼弱也龍光寺。○

良意

徳五郎

享保八年九月二日家督小曾信。○同

九年八月十三日甲府勤番同年九月廿八

日水^祝。○同十年五月廿五日死。年三

甲別左之將^持徳成寺。○

宅資

友左衛門

去

實良資三男

享保十六年三月二日養子家督甲府
勤番。同年七月初日兼上初具。○室
曆十二年十月廿三日致仕。○明和八年
十二月七日死。享年一。葬同寺。

資備

持左衛門

室曆十二年十月廿三日家督甲府勤番
○明和八年五月十五日兼上孫得同月
廿七日。○天保八年正月廿五日死
享年一。葬同寺。

資憲

二郎左衛門

秀茂

安永九年九月廿一日

天明

○天

○資

○資

資記

後左衛門

勤

資記

資記

勤

東照宮御代



高二百五十俵

後原姓

家紋 下菱

右左近守

始新罪
好子

小條氏康下仕左近

左近衛正長男

直能

孫四郎

初小條氏康。任元正七年直能字と稱す
同十八年小田原落城の故

東照宮、奉仕大右衛門。慶長八年園原
大陣修年。大坂西大陣修年。元和元
年八月廿七日死。享年三十一。葬地不知。

直重

清助 与左衛門

慶長十年、少人。元和二年、小幡
寛永三年七月廿一日、三百七十一。此
小幡原と錫山。

大徳院殿、神代大右衛門。寛永十八年二月
廿五日死。享年三十一。葬、光寺。子、安

直正

源又左衛門 孫三郎

大徳院殿、神代初見。孝安四年十月七
日大右衛門。寛文三年二月、大徳院持。天
和三年六月、新大徳院。貞享二年八月
廿五日死。享年六十一。葬、同寺。

直安

与子左衛門

貞享二年八月十日安清小督信元
元禄二年二月十二日大所番。元禄六年六
月廿二日大坂在番中死。年八十一。大
坂谷町法妙寺に葬る。

直久

久子郎

元禄六年七月十日家督小督信元家
永三年七月十日死。年八十一。大坂谷町
に葬る。

直忠

助三郎



実

宗永三年十月四日。卷子。家傳。小書信。
○正德三年七月十八日。死。平。四。年。同。子。

直保

与左

正德三年九月廿七日。家傳。小書信。○享
深十二年三月廿七日。大書信。○寛保三年
同四月十八日。西丸新書。○宗曆二年
病。死。小書信。○同五年三月十六日。大

西書。○同和四年六月廿七日。死。小書
信。○安永二年十二月九日。死
七千。六。年。同。寺。

維直

伊織 孫

明和元年十二月十六日。大書。○同七年
八月廿九日。拂方。納戶。○安永八年九
月晦日。病。死。小書信。○天明二年六月

十八日死享年五十一歳

直道

岩右

安永七年閏七月七日二男惣願○天保
二年九月被侍小菅信○同八年八月
月七日大水害○寛政九年九月七日
病歿小菅信○

常憲院教印代

高式十五拾石



白須

家紋 白須 後有 白須 白須 白須

源姓

新羅三郎義光出千一條上郎女

貞信之特号白須因父貞信志

之後胤 増山陣正か別正利之家臣 白須十郎

道政四男

政休

大兵衛

天和三年十月三日
瑞春院使相幼公
元禄十五年三月廿九日
安房之國之日知行
宝永元年八月十九日
上野勸善院

政休妻

牧師伯子
幼公不知

一、
政休妻
初名
牧馬

淵

元禄五年
常憲院
天子

同
御

Handwritten Japanese text on a rectangular piece of paper, likely a document or letter. The text is written in cursive (sōsho) style. The characters are dense and difficult to read precisely, but appear to include names and dates. A large character, possibly '月' (Moon) or '月' (Month), is visible in the lower left quadrant of the document.

裏面
白紙

政休

兵衛

天和三年十月三日
陽春院後相幼幼
元祿十五年三月廿九日
安房之國之日知行
宝永元年八月十九日
上野勸告院

政休妻

初即信子
幼京不知

小谷権三郎忠榮女

右政休妻後号光政院之捨人

杖持洋領 杖持方福下道以秋也

遠友但馬守 主膳 初名 牧馬

胤親

元祿五年依

常憲院被台令戸田彈正良成

長皇子 信守遠友家相後新和

壹万石

主馬

初名 八郎左衛門

政親

増山兵部少輔正陽方一族

罷止公白須十五歳政種由領

○元禄八年十二月廿五日

瑞春院叙上被召出從

公儀河切末貳百俵洋領○

同十八年三月廿九日寄合○

同年十二月廿二日百俵由加増

高三百俵○寶永元年十月

廿三日カキ付改修の跡式カキ付為六百俵

寄合○同年十月十日初見

○享保十九年九月十九日

瑞春院叙出領有之格別

之由緒カキ付今追奉母光院

弟公カキ付拾人カキ付被為政親カキ付

叙合五百石カキ付拾人カキ付被為カキ付

○元文四年七月十九日死七年四月同
寺ノ花并以下略

右政親實父白須十郎政種
方信信先祖父須志麻呂道信
著所武徳法言一卷并政種著
所之家訓滿笠籠遺編一卷
歸元徳用集七卷政親方二
相傳

政賢トクサキ

甲斐守 教貞 初賴母

実因村丹後与直純二男
元文四年三月十六日養子○同
年十月廿日家督小吉信○同
十月七日 御本丸由九 继月
涉後○同月廿五日因女勤尚
○元文五年十一月廿三日西九
石小納戸○同年十二月廿一日

○元文四年七月十九日死二七年四本同

右政親實父白須十郎政種
方信公先祖白須志摩守道信
著所武伎法言一卷并政種著
所之家訓滿笠籠遺編一卷
歸元德用集七卷政親方
相傳

政賢中又

甲斐守 教貞 初賴母

實因村丹後与直純二男

元文四年三月十六日養子○同
年十月廿日家督小宮建○同
十月七日 御本丸西丸 健貞
湯後○同月廿五日同安勤尚
○元文五年十一月廿五日西丸
佐小納戸○同年十二月廿一日

布衣 ○寛保三年六月

十九日

大納言致取小納戸 ○寛延元年

十一月十八日請方更申非文与子改

○寛曆十年正月十二日御移

替之長御本元法信 ○明和

二年正月十八日加秩二百石

○同五年正月十七日新當氏

格御用取次見習 ○同六年

十月十七日御側小石御加給

唯今迄取奉以五拾人扶持地方

与侍年款合二千五拾石云 ○

安永二年七月十二日死云云

兼同寺下并

淡路守 管 恭三郎

政民

实阿部豊後与正武二男

○明和七年十一月高智年卷子

○同八年三月廿五日初見
○同年十二月朔日部座儀分
由小姓取切取五百俵○安永
元年十一月十八日諸父更漢路守
之改○同二年六月廿六日免
二十(兼同寺)并葬

甲斐守

初名 幾之助

政維

實地山封等名正城貫四男
安永二年七月十五日急駕卷子

○同年十月七日家督号合
○同^同月廿四日由小納戸○同
年十一月十六日布衣○同^同月
廿二日家督之御後御本丸
西丸丸○同五年七月廿二日
西丸御小姓○同年十二月廿
諸父更甲斐守之改○同八年
孝恭院敎費御年四月廿日寄
合○同九年八月十五日小童儀

組配○天明元年十二月廿日
比小姓組番隊○同五年正月
十九日尾州湯使御罷
金拾枚給御目見御府
御目見蒙上意○同六年
同十月廿一日御書院番隊○
同八年六月廿六日大坂番隊
○同年十一月廿六日組井
半十兩遠嶋給御目見

相何如御目見遠嶋○格
○同六月十七日御免
○同三年三月廿七日組中風波
不臣之慶心用方等御目見
御目見通差相○同
年四月廿六日御免○同
年秋元臺波給御目見大坂番
先病死身右為代同正月十日
大坂在番急臺○同六年

七月廿四日御側 ○同十年
廿六日

若君附 ○同九年四月廿四日
九勅

懿

加賀島 初名 鐵五郎

寛政六年

若君 御宮系 御馬御供
同十年八月廿七日初見 ○同

年九月廿七日 御宮系

騎馬御供 ○同九年
晦日部 御位 在出

若君附 御小姓 ○同十年
十二月 十六日 諸大夫 加賀島

常憲院教部代

高之百儀



白須

本姓一條

家紋

卷甲輪造
九星

源姓

新羅三郎義光公一條上野女

貞信家名一條右貞信

時白須故一條上野貞信

十三代

未馬

政歸 マサツク

實大夫保右左衛門兵衛

右政歸又白須宇右衛門政保

後名増山陣守少將正利正徳

時政歸實方縁者之續云云縁

云年三月養子之縁因八年

十月十日

瑞春院教 ハク 石出使

常憲院教 ハク 切米式百後洋成 ○

之祿十五年三月廿九日葬合

○同年十月廿二日清足之

百後洋成故合云云百後之

○享保三年三月十日水姓

組 ○之文二年六月廿日死

賜 天竺寺 ハク 葬

織部

政忠 マサタケ

實久保清三郎岩次男
享保十七年十二月大日養子
○元文二年九月十三日家督
○同三年二月廿六日西九河
小姓組○同六年四月十八日死
年不上野勅旨院花葬

政休

實久保清三年患疾

○元文六年七月三日養子
家督小僧清○實保元年
四月廿七日出家院番○延享
元年十二月廿三日病免小僧清
○實曆四年八月廿日隱居
○同六年七月廿日死年不
同寺葬

政成

郷助

寶曆十系兵部李珍男

○寶曆二年九月十日養子

○同四年二月三日家督小菅

後○同六年二月九日西丸沖

書院番○同八年三月六日

病免小菅後○同十年二月

廿七日沖書院番○同十年十月

廿一日進物沖番○同十三年

七月十日痛所進物沖番

寢番方后出○明和五年正月
廿九日病免小菅後○同七年
八月十八日隱居○安永
六年十一月十六日死六拾七歲
○同寺一葬

末馬 幼名 右之丞

政直

明和七年八月十八日家督小
菅清○天明二年五月十四日

西在沛小姓組○同四年因
正月十二日祀三拾歲同寺齋

十兵部 織部 求次郎

政信

實 蔭山外託廣 追男

○天明四年四月五日養子之齋
小菅清○同五年十月十二日
沛書院書○天明四年九月
於濱沛庭大的 上覽時後之

○同八年二月廿七日於吹上
沛庭新村 上覽及拍二○
寬政五年七月十日奉領
小菅清

神田源氏

高貞百儀



白井

本名山田

家紋

九之角平曲目倍
九之月考

源姓

先祖白井伯耆守忠利遠江守
右近守山田右衛門尉
後稻葉氏改又源氏爲何重時
白井氏改

清和天皇後流六孫王經基次男

左邊村滿政三出代雅樂助
利之紙系中納言秀康卿同
宰相忠直卿同宰相忠昌卿
三代勤仁之後寬永十一年丁酉
晦日紀右利之婿男

源平次

忠明

万治三年丁酉月新親公 正生
出切牙百後三人扶持治小少組

○寬文九年丁七月十三日死
谷中信行寺子孫

源之丞

忠房

寬文九年八月日不知家督百
後三人扶持治小少組○延
寶元年丁七月廿三日出小少組
出使持方之正正出切牙百後
之下○同二年丁二月廿日表出小

姓○同四年十一月八日奥内小
姓○同六年八月廿三日法書
院書○同八年十一月七日
淨德院教西之九下以爲 入公
小十人組 淨遊玄以存西九百
小書信○元祿七年九月廿三日
桐之間法書○同七年十月各
痛免小書信○同十六年六月
九月死歲名洋同寺一葬

七郎兵衛

忠久

元祿十五年八月廿五日家督
正切牙貳百俵給小普清○
寶永六年十一月廿日死同寺葬

甚四郎

封久

信易郷士

實里氏三郎信易利封次男
○寶永五年十一月七日卒

○同六年八月廿五日家督内
切米式百依治小宮清○享保
三年三月十六日大抵書○同
十三年九月四日死歳不詳
同寺ノ葬

直次郎 隠居名 一樂

尊利

享保十三年十一月五日家督
小宮清○同十八年十一月廿日

大治書○元文三年四月九日
痛免小宮清○延享元年
八月八日可橋通習書○寛
延四年九月廿日同所目付及○
宝曆四年八月十八日所立書
市川書改○明和八年六月火
胃痛免小宮清○同年十月
七日隠居利髮一樂改○安
永四年閏十月三日死六十一歳

同寺ノ葬

七節書 壬辰 重命初

利トシ庸子

信別師士

實柳 汝次郎 重信次男

○寶曆二年六月廿七日養子

○明和八年十一月七日家督

小書信 ○安永元年十二月

廿六日大出書 ○天明元年

七月六日新出書 ○同四年

三月廿四日相商依野若尾為教
教中礼公一併 ○同一年四月七日
小書信入 ○同八年二月二日
大出書

重次郎

利トシ尚子

安永七年七月十五日渡江後

出書 ○寛政十年

三月十三日新出書

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a large rectangular box.

台德院教諭代

高百儀五人扶持



白戸

平名白土

家改

二引朝
授桐葉

平姓

一品武祿郷首高家親王之後流

漢守府將軍平國香十六代

海道小節成衡高代之孫

岩城右近左輔隆良三男

隆宗 タカノ

右馬

右馬

長十一年二月六日御出馬見
○承應三年十月廿九日
七郎寺所蓮妙寺不詳

正隆 タカノ

右馬

長十五年二月廿九日御出馬見
○承應三年二月廿九日御出馬見

明政 アキラ

右馬

長三年二月廿九日御出馬見
○寛文三年三月廿九日御出馬見
○寛文三年十月廿九日御出馬見
○同十二年正月廿九日御出馬見

○同年八月年終不知死同年
り并

次之清

正祐

元祐三年十一月家督小菅隆
○同三年六月表大之番○
寶永五年十一月正徳身才○
享保三年十一月朔日此人減少
因及此拾文入小菅屋入○同九年

十月

東光院教清廣浦派者○
同十六年二月年終不知死
同寺り并

考八席

政宣

享保十六年十一月十日家督
小菅隆○同年十一月廿六日
西在湯廣浦派者○同九年

十月三日
 御簾中 御逝去年同年青
 土日其後西丸御廣安作書○
 寬保元年十月九日忠幼定
 ○同年十月初見○宝曆
 二年十月晦日痛免小色後
 ○同四年八月三日死 祥雲
 同寺ノ葬

隆德

彦左衛門 初源之丞

寶曆四年十月廿四日家智小
 常清○安永元年十月廿
 初見○同七年二月廿三日
 書物御用○同八年八月十日
 書物御用骨折出精牙復限
 拾枚湯巾御用○同月廿日又
 評定所書物御用出儀○同年

九月七日出役相勤以月勤仕在
○天明三年七月九日出役勤為
出役技指之人技指後○同四年
八月二日出役以級段夜勤○
同年十一月十九日支能世活以級
勤仕並出子當拾人技指後

東照宮御代

藤本

高六拾俵式人技指

藤原姓

家紋

左リニッ巴
蝶

小宗平野大掾政光二男長治治政為
宗政後流主水宗光平野國河津家
若任苗字藤本之改宗光之代目也

編長男

光九郎

信正

天正十年伊賀路に戦事為遊以長俵

者一同伊勢國白子之由供丈、清和為
下、別、平為入其由志、於尾張
鳴海、清和、平、出、由、供、丈、大坂
清和、平、年、之、二、指、年、由、丈、公、任、由
○天正十九年、清和、入、國、之、由、為、由、年、矣
於氏、國、仙、川、之、人、付、西、黃、文、地、地、地
官、賜、年、不、化、付、奉、預、由、就、來、由、川、路
之、松、儀、或、杖、持、賜、年、年、年、○元和二年、由、丈、在
之、世、之、由、之、組、同、心、同、八、年、十、月、七、日、死、年、終、

四、台、就、白、水、之、葬

元和二年

重信

元和九年正月、家、獲、由、先、之、同、心

台、德、院、殿、大、猷、院、殿、 由、上、由、供、奉

台、德、院、殿、西、九、由、平、為、入、由、由、供、奉、由、九、

之、組、同、心

台、德、院、殿、清、和、他、界、之、由、何、事、之、也、判、按、由
仰、付、由、令、奉、賜、○寬永十九年、由

江永口津城書相三年三月番。○同本
正保二年先子組同公。○寛文六年
正月八日死。年齡不知同子葬。

信重

六三番

寛文六年二月家持先子同公。○
元禄七年組同。○同十年六月被仕。
○寶永七年六月八日死。年齡不知同子葬。

重賢

兵部

実

延宝二年養子。○元禄十年六月
家持先子同公。○宝永二年二月
清孝丸山廣忠伊賀者。○同六年
月
竹姬君供奉二九任賀者。○正徳二年
二月進物九次上番。○同八年十二月

加秩拾俵合四拾俵元保○享子保元年四月
清和九年廣文御書元保○同十二年加
秩貳拾俵合六拾俵元保○同六年七月
刑部口清誕生用相勅元保家次根孫
枚賜○同年並清足高合百俵或扶持
○同十一年十二月十九日 清心院殿附詔
書○元文四年十一月遂行舟一統小當
清入○同又年七月又日改仕○延享
四年十一月廿八日元保死元保同古葬

茂卿

兵部

元文又年七月元保小當請○寬保
二年十月清和九年廣文御書元保○延
享二年六月大奧出書請清用○同年
十月十日清用出精小當家次根孫枚○
延享二年十一月十日清用出精小當家
次根孫枚○寬延二年四月又十宮
系領清下向仕待詔清用相勅元保

英報武放賜○同年十一月津田精
法在蒙英報武放賜○寶曆元年十
二月翌之月十一月右同月○同二年七月
廿日法勅定並通百又拾後子之孫
以是高○同十年十月二日津教法勅定
初屋之為氏別仙波 津宮每二芳殿
天神社法修復見今津田津田津田
十八日法令武放賜○同十一年二月廿
日法用不時 津免若如東信也又視之

女官

津白見遠之惠○同年四月十八日津免
○同十二年四月江州殿心
津宮並西塔款也堂山庭根洞尾有右
花園子法勅定并山孫吉所山花女子
法伴付法付為代法極老○同月九日
山崎時彼法令武放賜○同同四月八日
又指之歲死同寺葬

信般

勝之助 幼弁之助

元治元年
実相深清之史正俊男

寶曆四年十二月十九日解表子○同
五年十二月六日由勘定康平百保○同
十年十二月八日由虎法門外由塘渡并赤
坂滿池瑞明地由當諸由園正藤家史相
七枚湯○同十一年九月廿七日虎法門外
山下門外之由塘渡由園○同十二年

六月八日由園貴形由拾枚賜○同年
七月八日由家持○同十一年六月廿二日
胡餅種人多由園子同七月廿九日野
刈奧之助由地令由枚湯由府飯田了
神田組屋所人多由府立令○明和二年
八月廿一日由以○同四年二月廿六日
人名由園然清免由藤家史相又枚湯
○安永六年七月廿一日由村木乙亥形
○安永八年十一月廿一日死又相又歲同

寺蘇

信節

勝友寺 初勝又序

安永四年八月十日次男熱願。同八年十二月廿六日家形續小若為信。天明八年八月十八日法勅定。寛政四年二月十日公家形池有法題。向法取歸法用。同年二月九日法又放賜。同年八月十一日大奥長与法修復立合法用掛。

同八年七月二日大奥長。亦敬法修立。法法右等同法使。亦法法席下向其。外法法修復立合法用兼常。同八年十月十日右法用骨形。合法放賜。同八年二月二日上一州世存因。亦家并諸堂社。亦外法法修復立他。亦法法立合法用。同月廿九日法修。合法放賜。同年十二月廿九日法用。骨形亦法放賜。同十年二月六日。

聖堂再建由並清用掛。同十二
年十二月之日由用骨折令武放賜

有信

法信定

大次郎

常憲院殿清代



藤本

高百之拾儀式人扶持

藤原姓

家紋

左リ之ッ巴
襷

藤本覺左衛門重信次男

六尺五寸

信成

元祿七年正月十一日兄六云清元
外之為孫立以是西丸由為寄居支配
同心望石本原米之拾儀式人扶持
賜。同十六年十一月

新瑞姫君清殿法崇為請、付西九所為
入之、後法崇為前清書相勅、同為
十二月清移院、法崇法崇後、令賜
右負教不知。寶永元年十二月

又日

文昭院殿為凡、法崇為入、法崇為守、法崇
死、山里法崇相勅。寶永元年二月八日
月十日、被法崇。享保元年二月八日
死、年齡、柳鴻法崇、守、法崇

信時

源八郎

實相原仁、法崇某男

室、永又、年、同、月、十四日、表、以、子、同、為
法崇、月日、為、凡、法、崇、為、法、同、公、享、保
十年六月十日、西北清書院、組、同、公
當、分、法、存、同、十九年、六月廿七日
病、氣、付、小、當、傳、入、寬、保、二、年、二
月、十一日、被、法、崇、室、法、崇、八、年、十二、月、廿、八

日七換之采死回古に葬

淳房

六戸邊 源光 初源光部

寛保元年十月十日次男熱願○
同二年二月十一日家督小普請○
同年五月廿九日為凡清書院組因
心入人○延享二年十二月乾病
氣才小普請入○宝曆二年二月
十二日小普請組に召取○同七年二月

廿八日世話没○同十年七月同日支祀
勘定○同十一年八月同日増上寺

有章院殿 御靈屋清修後

惇信院殿 清廟 清涼殿 御家

塔出普請法用掛○同十二年六月十

六日此勘定奉行石谷備後守長

等奉行兼役三付指跡書仲付○

同年六月廿九日増上寺清涼修後法

用出讓券銀不取賜○同年八月

十九日長濱(古)用(古)令武指(古)細
同(古)月(古)廿(古)八(古)日(古)廿(古)五(古)〇(古)同(古)十(古)四(古)年(古)正月
十一日長(古)尾(古)用(古)勅(古)海(古)府(古)〇(古)同(古)
三月十日長(古)濱(古)用(古)法(古)儀(古)義(古)根(古)
武(古)拾(古)枚(古)賜(古)〇(古)明(古)和(古)二(古)年(古)八(古)月(古)十(古)日(古)法
勅(古)定(古)〇(古)同(古)年(古)同(古)月(古)八(古)日(古)西(古)京(古)戸(古)禱
後(古)定(古)夜(古)見(古)直(古)り(古)法(古)用(古)〇(古)同(古)二(古)年(古)十二
月(古)京(古)都(古)准(古)后(古)清(古)別(古)殿(古)清(古)示(古)諸
古(古)用(古)江(古)戸(古)掛(古)〇(古)同(古)四(古)年(古)十二月(古)二(古)日(古)右(古)法(古)〇

古(古)儀(古)義(古)根(古)又(古)枚(古)賜(古)〇(古)同(古)年(古)十二月(古)十六
日(古)去(古)西(古)年(古)同(古)月(古)一(古)日(古)為(古)亥(古)年(古)八月(古)五
禱(古)後(古)定(古)夜(古)見(古)直(古)り(古)法(古)用(古)古(古)儀(古)義(古)根(古)拾(古)枚
賜(古)〇(古)同(古)六(古)年(古)十一月(古)十日(古)法(古)勝(古)〇(古)古(古)年
後(古)改(古)方(古)法(古)用(古)〇(古)安(古)永(古)元(古)年(古)九月(古)六(古)日(古)法
勅(古)定(古)組(古)以(古)〇(古)同(古)六(古)年(古)七月(古)廿(古)四(古)日(古)法
厚(古)十月(古)一(古)日(古)為(古)年(古)同(古)月(古)一(古)日(古)定(古)武(古)法
用(古)古(古)人(古)一(古)〇(古)貴(古)折(古)相(古)勅(古)法(古)儀(古)義(古)根(古)
拾(古)枚(古)賜(古)〇(古)同(古)三(古)年(古)二月(古)十(古)日(古)西(古)京(古)

以水部為請出用然同月十七日
令之授時服二ツ市羽織一賜同月
七日也。同年七月九日歸府。
同年九月十日右出用出使兼
之授時服二ツ賜。同年十二月十九日
出務子方組次。同六年七月廿二日
長等出用江戸子。同七年二月
二日日光

清宮 清靈殿 奉 增古所復江戸

清用掛。同八年八月二日清宮公
初精骨形相勸比付加秩百俵合百
之拾俵式人扶持。同年十二月十二日
日光清所復江戸出用掛。出使兼
令之授時服二ツ賜。同九年二月
十九日去亥又月。同十二月三日勝子
方定式出用去之。骨形相勸比
付出使兼親七枚賜。同十年二
月十九日上殿出奉増沙務子向出

歸元調出用板相勤。大明元年
正月廿日江州山所出修復江利江戶
取板相勤。同年五月六日相取錫國
八幡出修復江戶出用板相勤。同
年十二月廿八日去子年十月廿二州
失地橋出修復江戶出利江板相勤
同八幡出修復出用江州山所出修復
出用右之津用骨抄比付出修復與合
去之放賜同日商七年二月廿二日

出勝子方定式出用之六。骨抄
比付出修復與七枚賜。天明二年
十二月七日去丑年中朝鮮種人來之
比付出修復與七枚賜。同之
年二月廿一日死六拾之采同去之葬

源亮 源太郎

淳美

安永二年二月廿八日
源院殿初見之書島自去其員文

八日沖勝子方改方。同二年六月
 十二日山田勘定組次。同又年七月
 廿七日岡東川。正長為徳少用江戶
 郷。同六年七月六日右山田徳
 法用相勤少用慶令武技賜。同
 八年二月十二日死。同拾九歳。同奇安

安貞

通之物

寛政八年又月之日家務少安貞

東照宮御代

源原

高百八十歳

源姓

家紋

九ノ門ノ葉

桃井玄部少補義流八代母後守忠

義進江國源原舟住政源原六代

孫若右衛門正次惣領

源左衛門

初代

自任

勝重

慶長

年月

久貞忠之節組源流

後永丹後守忠系
 母法守義忠系
 昭則
 正徳九年四月廿九日

石出。同十又年

禁中乙垣山常請并伏見市城中乙常

請并大佛殿市常請并奉行自君前

出并自忠之節名代在御市常請并

仍相勤。同十七年。与二十一年相勤

○大坂丙度市陣供奉。元和九年

大猷院殿市上流。良法院目付市供奉

于後。年月。市廣福寺番。寛永十

年九月。旨

清泰院殿市入藥。良市附列加

秩不拾俵。市原為番。良。市。越

去。以後。小。市。請入。寛文二年七月

被仕判發改自体。○延宝八年六月

月。廿八日。死。九。振。之。歳。斗。也。櫻。所。大

法寺葬

勝忠

源實朝

七

勝政

十右衛門

寛文二年七月廿八日母氏終末小若孫
奉理院殿為附正廣為番之以清
逝去好小若孫傳入。延宝七年六月
十八日死年終末同守孫

寛永十二年刻牧野浪守組正代は
清抱入

勝常 十右衛門

戸田系女正孫末孫成孫初

重寛

左助

戸田系女正孫末孫成孫初
実小左衛門勝常惣領

延宝七年七月九日母終末小若孫。
元禄十八年九月十八日清勘定
○宝永六年九月四日病免小若孫
入。○正徳二年六月十八日小十人。○享保
八年十月十二日百死孫孫初同守孫

勝記

孝行

初病

孝行

建武元年 實保原久

忠政

享保元二年十二月廿九日

○同七年十月廿二日

○同九年

正月十八日

長福殿元元 清移院

有德院殿 初見 ○同十一年正月廿八日

○同十二年八月廿一日

正易

孝行

○同十一年十月十九日

○同十二年十月十九日

元祿元年元方

元方

勝記

孝行

寶曆元年二月十日

○同高年六月二十日

家督小曾後 ○ 昭和七年
十月九日小十人組 ○ 安永五年
四月日光 御社奉之古法代限
之指板以下之定例七年二月五日
令出持事

某

法示

昭和七年七月六日

藤原重田

百俵三人持持

藤原

家紋 九角旗兼
九角井筒

婿家重田在九角与秀三代重田御助
与貞養子在文部某时代年月不知家紋

左金町与秀

重田

与勝

慶安二年 御新規 与重神田御助
原与百俵三人持持 ○ 寛文八年六月廿日

北平教坊知印如丸山長承寺葬入

寺以

佐左美

実在銀門寺房三男

寛文八年三月廿二日葬入○年月不知神田教

小主人組○之後

淨徳院教坊佐左美行○歸下法○天保年

一統小當清入○元禄十二年二月廿六日葬入○

寛永六年三月廿二日葬入○享徳二年二月

廿九日死年數不知同寺葬

治之活

寺豐

正徳二年五月葬入○享保之元年十一月

葬入○同文年四月廿七日葬入流美

○同十年四月廿九日死年數不知同寺葬

葬

寺也

武金門

実又不知

享保九年十一月卷子○同十年七月卷子
○同十一年十二月九日卷子○同十二年
二月二日右邊國書致清少人○同十三年正月
八日右邊國書致清少人○享保之元年十二月六日
右邊國書致清少人○享保二年九月五日死年數
不知同寺三卷

与改

武在書 万之助

享保二年十二月卷子○同三年六月
十五日初九○同四年十一月十六日西九小
十人○安永三年五月三日卷子○享保四
年四月廿八日死年數不知同寺三卷

与周

軍台金

実又小西雲平

寛政四年七月二日卷子

東照宮代

東田

高松石文持持

源姓

源紋

丸内権ノ末
井桁

七孫王經卷後胤武殿与滿政未流信信不
信人而由法路与漫男

周防 又部

与國

東照宮深松方乃威口程与部信次一捨ノ者在

小泉上校と紅と合楯電知若田右衛門佐重
東照文上云々忠伝らるる一頁多し
秋一々きにより信以春日村奥見法
り山山巻に引籠りおまき子に右馬門佐方、
所書り双下信以、祐士の味方、可なり成方
入り多し何走し一味は信し小勢急
初村若軍し、後後上より下奉家上云々
若田右衛門通し使し、一、遠以流松お
度は紙お物とる所信英万全一紙お紙

二度目し使ははは油の言、信以山中飲お
公天三十年二月廿二日死に、享年三歳信
流以依る方初想、杉村上使守蘇

与光

助之屋

若田右衛門佐重所、山山巻、引電、おまき、知天正
十年七月

東照文甲斐、新府、所、馬、小泉、所、村、陣、言
若田幸満者、山山巻、討出、若田佐重

西城と攻取らば右邊の信見或討死し今有森
組の者之惜命同山岩尾の城守事
池原某討死す中務の者名知り而
討死す其如云正十年四月

東照、又信及甲乃津信定津島に言及田
本平討の者云甲別津陣取らば城去久保
七郎在東門披衣高云月二日津島人住山前
若田信徳し軍忠下願る名及信有若田
信程免るに属一同月世は城と攻取

信及意く市子小入云云後

東照、又云云山城國信見と其番は信及如
其長云年七月信及上南表と其田在信
城上の中

右徳院敬と其附國乃其田口信住同年九
月國々系津陣と其田信及信徳と其
信及後之和二年六月十九日信及年七
同寺小蘇

与久

在信

台德院教奉仕系長十九年十月大坂西津浦云
 如多佐源与信延高信仕之初三年六月大
 坂西津浦津陣出仕江戶与延系仕年始
 一山礼上西之知り初引延之在江戶信書
 信之在江戶相勤○之信九年二月信河
 大徳院教奉仕系長人○寛永十年分
 大徳院教奉仕系長返以技持方系由以八年寺信書

○同十七年十月台徳院南○同十八年十月知
 初以切系以技持方信延高信
 延高信○寛文元年二月廿九日卒之系小石
 川三首坂慈照院小族

平助

与勝

寛文元年十二月卒信○同六年六月信延
 信○之信元年四月廿九日卒信系小石

葬

与洗

淳平次

忠正郎

之福元年七月葬
○宝永二年二月廿五
葬
○享保九年二月十七日
葬
寺の葬

与是

淳平次
忠正郎

享保九年三月廿三日葬
○元文元年十月

十八日葬
○享保元年八月十日葬
○宝曆十年十一月晦日
葬
○天明六年十月八日
葬
○天明六年十月十八日
葬

与英

猪十郎

安永元年十一月十九日
葬
○元禄九年十二月十二日
葬

以用同月十八日爲全或校付後二〇天明之年
 以月移在國所傳得日共六〇應全二枚
 付後二〇同六年十二月廿九日〇是改三
 年三月十日系向之氣流口始有四五傳以用
 〇同年三月十九日應治七枚〇同年十月廿七
 日死二年六月十日寺葬

与教

京次郎

実者与是次郎

寛政三年十二月廿九日之卷子家信〇同日
 奉回二月十日死於一氣門寺葬

与道

角次郎

是年御室花菱渡并助十郎之月次郎
 寛政四年二月廿九日之卷子家信〇三月
 不知年月〇同十年六月十日母樹上落友
 物二流能 結海

東照宮御代
重臣

高橋儀

反系姓
家紋
花柳道

先祖不詳

伝勝

全書

三河安井村百姓高橋儀之孫也
高橋儀之孫也

東照宮御代
高橋儀之孫也

伊賀越ノ部ニ住ル伊賀ノ者相勤ノ陣
ノ旨ノ旨ニ法也勤後年月日不知家統
年數ニ事示ナリ

伝正

仁在書

天正年中於三州

東照天皇ノ御代ニ於テ相勤ノ陣ニ
傳正ノ事示ナリ
此年數不知事示可蓮光寺藏

伝督

仁在書

寛永二十年三月ノ事示ナリ
二年二月十九日死年數不知事示

師知

仁在書

正保二年三月存書示ナリ
天樹院教所行傳ノ事示ナリ
月十八日此年數不知事示

源征

全之清

慶安之元年正月九日於竹橋口致所山是

○之後

清揚院致所口致清福院山是○

之祿元年九月十七日死年數知日寺葬

任義

全之清

之祿元年十一月在信長園山致所山

乃走○室永之元年正月九日○日六年清中

在初○正徳六年

有章院致所山致所山致所山致所山

川口山○日年十二月

天英院致所山致所山○京原二年十

二月山減所山致所山○日二年十二月十九

死山知日寺葬

師義

全之清

享保六年三月
所出乃是
延享二年九月
神回所出乃是
○享延二年六月
七月

大納言致附
○同正年七月
月西九
神回所出乃是
○同正年七月

○享延二年四月
○同正年七月
○同正年七月
○同正年七月
○同正年七月
○同正年七月
○同正年七月

伝征

又々

天明四年閏三月廿六日官渡屋住口勘定○同
 七年六月九日幕府○寛政之末十月十九日
 大川渡出常清川用○同二年六月廿七日川渡
 川渡屋全二枚○同年十月廿七日甲次川之常清
 不見不圖物之急水川常清川用○同年
 十二月十日甲次川之常清仕之川用○同四年
 八月廿五日二枚川渡二○同二年八月十五日席
 府清屋之○同年六月十日常清全二枚○同年
 十二月十八日國東助川之常清川用江戶掛
 ○同二年六月廿九日川渡屋全二枚○同年
 二月十五日江戸川神田川渡出常清川用○同
 年十二月十六日川渡屋全二枚○同年十
 二月廿八日東海舟船甲次川之常清川用江
 戶之○同五年九月廿五日川渡屋全二枚
 ○同年十月十九日三宮國政常清屋場所
 拜見之川用○同年十二月七日川渡屋全二枚
 川渡二○同年十二月廿八日常清川用○同十年
 二月廿八日國東助川之常清川用仕之中

見之字用○同年八月廿四日代官

下

神田少殿



源田 本氏成田 子百儀久人持持

後系姓

家紋

一文字

三引龍
大引流

成田下徳子長泰只代源成田

大務左輔長親子源田内記

長久之三引寶殿源田村

源田何々源田と稱長久

男

久直たけ

孫回孫孫

寛文二年

月日

嚴有院様河代於神田 河原

口信口信

百古子後年号月日小志

川河原造切口門番口信

作月〇延宝七年月日改仕卷

老料口信口信持上揚子〇同

八年八月九日死

久隆

孫回孫孫

寛文十一年

月日

嚴有院様河代於神田 河原

口信口信百古子〇延宝

七年父孫凡出改仕家督七孫

儀又人扶持揚子

常憲院様口信口信口信入公前口信

四年九月廿四日○元禄六年月力
三九四度发凉尚力加秩
二十俵力下百俵又人扶持○宝
永二年朔日三九一统小普清入初
小普清○正使记年十二月廿日死

隆光

篠田孫氏

宝永六年十二月十六日卷子○正
使记年十二月廿八日家督小普清

○同又年十二月六日支那助定○
同六年正月廿六日译定所受
初見

有德院柳河代享保十六年二
月二日助定組次○同十七年七
月二日病免小普清○同十九年
又月十二日小十人○元文二年
十二月十一日助定組次○延享
元年三月十九日刑部卿殿取

新相勅○寶曆六年十一月十九日
死

久俊

藤原孫氏

享保十六年六月十二日初見○
寶曆六年十一月廿七日家督小
番清○同九年十二月廿又日
勅定○同十二年二月廿日朝
鮮人來朝○用書作符○同十

只年石川南水初以又符廢令
去殺○同十二年十二月又日死

藤原孫氏

泰通

實中村者外生利奉次男

寶曆十二年二月廿日養子○
明和二年十二月廿七日家督小
番清○同六年二月廿六日
勅定○安永元年十二月廿七日

奇合小普請田役令取集田用田
多尚浪十枚宛年一揚子○同八年
二月日東叡山田靈屋田修護
孝恭院柳田宝塔田普請田用田
同九年七月廿七日廢浪古投○
天明元年比月之日越後田
料亦村一切添切田檢地田用田
令二枚時版一揚○同三年十月
九日信列邊同山燒泥入砂障村

二田畑起進田用田令二枚
時版二○同七年二月八日廢賞
令二枚時版二○同七年十二月十六
日東海道川田普請田用田
時令二枚時版二○同八年八月廿
二日出羽國村代換是田用田
令二枚○寛政元年閏六月七日
一稻殿野野田○同七年六月廿日
用人是者○同八年六月十八日

用人同年十二月十六日布衣○同
十年二月十八日長柄厚○同
十一年二月十日用人

隆之

篠田卷臣

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

常



篠澤

本氏

高百八拾俵

村过深氏姓

家紋

丸の内墨二
丸角白柳

三列百姓家永菅氏出忠使

男

忠知

菅志業

家紋

始有被費者多仕後漢人

觀世流乃淫仗以成

常憲院極享上岁元帝十只年十

二月二日新親正書秩禱百又

十儀設科百儀也賜四廊下書

去之有千前分母方之苗字

改藤沢と称す○同十六年二月

日不知行河本江能お初時取二羽

也賜○宝永六年二月亦二日一

統小普徳○元文又年六月十

日死六十八歳谷中陽林寺塔中

本立院に葬る

忠悦 普進

元文又年八月二日家督小普

徳○延享二年六月十八日初見

○寛延二年九月日不知小普徳

四波令取立波〇同二年四波
令取立波病死小普清〇寛政
又年四月廿二日没仕〇同七年
三月六日死七孫六歳同古
葬

忠侍傳々吾臣所

宝曆十年八月廿二日没小

十人より新親統緒十七人
二人扶持揚々日清あり
くて篠沢標次郎秀時と云

忠昌 普次郎

寛政又年四月廿二日家督
小普清〇同七年十二月廿日
初見

忠恭 小膳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

信佐院教所代



篠崎信貞

高武百俵

友系姓

家紋 花菱 北江海

信田小太郎後裔の由代、大和
乃郷士と有る。小巻子
初て小児科乃醫術と業
府より、乃篠崎と稱す。

養子三代孫二徹長堅子

幼名勝又節 快順 後打養法眼

長瑞 ナカヨシ

寶曆四年正月十日千賀養圓 二男

寶曆四年正月十日千賀養圓

不例 節所醫者

診脈 節所醫者

八日慶長十夜 ○同九年十二月

十八日節所 獻 初見 ○同

十一年九月十日新親 節所

武百儀湯 節所 醫者 ○同月十日

要醫者 節所 醫者 武百儀

下 ○同年十二月十日法眼 ○

同十二年十月十日所 千代春

同誕生 節所 節所 武百儀 ○

同年十二月十日自負 節所 節所

生 節所 節所 節所 二少

同十二年二月廿五日竹千代君
田邊重之師時服一重田邊重一
重揚同年八月廿日萬壽服一
田邊○昭和元年十一月廿日竹
千代君田邊重之師時服一重○
同二年十一月廿日萬壽服一重
曾^武從田邊重之師時服一重○
同三年正月廿八日竹千代君田
邊重之師時服二重○同四年

十八日田邊重之師時服二重○同
六年十二月九日竹千代君田邊
重之師時服一重○同
八年^{正月}公觀院殿田邊重之師時
服一重○同
○安永二年閏二月十日宗慶
院殿田邊重之師時服一重○同
○同八年七月十

己酉死七十五歳 漢弟海輝寺塔
中泊松野之葬也

長正

扑養法眼

二伯

初達之部

實所醫所 武友云長親孝悌

父長湯町醫 前養子○明和
三年十二月廿一日初是○安永
三年二月二十日初是後之部

家業出精也 又長白
部系亦の出仕 命也○同入
年十月八日家督奇命○天
元年七月十九日西九五醫と成
旧青科 康米式百倍揚○同奉
十二月十六日法眼○寛政元年
三月廿八日淑姫老口誕生○初
口是四七夜中 浩切打物比之
己月廿七日没又十夜終○同室

六月十八日四不例中四十三日派
切四茶着上四使方子何而矣
子て慶賞浪古殺○同二年之
月又日一指民初以般四死瘡子付
造切四茶着上四秋子何付同月
十又日四酒湯お淋造切子不及
退也○同二年十月朔日檀岸
院殿四誕生四用矣子て妙後
三卷七揚○同二年七月十日

竹千代表四誕生四用○同月十九
日四七夜四夜候有上四附要醫
○同亦之旨上四用お初合之妙後揚
○同年十一月十日竹千代表四
是也上て時服一重下三子
○同二年三月十日四不例
前四茶着上子又日之造切四全
使○同二月十日同安之清門替
殿四死瘡子付十日之造切四

某潤子○五月十日敏次郎殿
田邊生田用○同月廿三日田邊
左馬督殿田邊倉中治切田邊
治仕渡浪二十枚時辰三湯○同
田邊生田用相勤牙端細之卷
下○同年六月三日
竹代君御下御牙同本四日御轉業
相勤○同本四日御逝云迄治切田邊
○同七月十日御牙丸真醫師

○同年八月分

孝順院致御石例中骨打
白浪拾枚○同年九月十日
敏次郎致御事

若君占不奉祿旨云 伯金御附真

市醫師○同六年六月九日

端正院致田邊生云迄治切田邊

○同九年七月

若君初白紙業云 御社系末云

山王印官糸之在湯沙先書水
信○同七年十月十日
致之助致津總生湯沙津用
○同年十月九日右沙用
編緬三卷^後○同年三月十日
敷之助致津總生津沙津用
○同年八月八日編緬三卷
津沙○同年七月十日
續振君津總生湯沙津用

○同年八月三日右右勤一身
編緬三卷^下○同年十月十日
總振君津總生津沙津用
○同年十月三日右右總生
之在格別骨抄身於真白銀
拾枚湯○同年十月十日右
津用身編緬三卷^不同身書
致之助致久之由不例身湯沙
卷上以振^上信身同十月十日

御子生治沙療治仁公後免角
 御同第年御轉藥之御書願
 用之出書珍二月四日同十有
 治逝去進治切相勤○同年
 四月八日於真白浪之校美御
 藥之上以有白浪七枚湯○
 四月廿一日
 大納言敏西元下御徒移身治
 儀算五元下今進之通書

御書相勤御書分之
 後○同年四月廿
 總推君治不例中御書南
 ○同年四月廿四日
 棲真院御書御用相勤有
 白浪二枚於真元下○同十年
 二月廿九日
 豐三郎御書治發生治珍御用
 同年四月二日御書後之卷下

○同年四月四日合部不例牙
 同去日迄迄切部珍法用同
 十八日部令使牙白銀三枚湯
 ○同年八月二日
 格推后部誕生部珍法用○
 同年八月十四日編細三老下
 ○同年七月十八日
 大細言教部起見想、後身○
 同年九月廿三日

淑娘君部誕生、初法法藥丸
 上使、以遊部成長部部部入與
 部、後身編細三老湯

三徹

長義

安貞、秩父町医師中鴻道同將
 ○享保年中長端町醫者
 養子仕長端、在出、出次男、
 中上寶曆十一年中日本橋部

目長瑞看宅相讓以條濟と
和名系別宅住也之之後

後明院致_レ御自見○是永二

正月廿日死_レ六拾六歳_ニ海草

海禅寺地中泊_レ船軒_ニ葬

三伯法眼 使_レ噴_レ印_レ勝_レ帝

長發

寛政二年_ノ九月三日初見○

部_ニ住_レ之_ニ同九年二月十日

新視_レ正_レ正_レ出_レ切_レ牙_ニ或_レ百_レ依_レ湯

西丸真_レ却_レ淨_レ醫_レ師_ニ已_レ日

致_レ之_ニ助_レ及_レ却_レ淨_レ醫_レ業_ニ藥_ニ方

付_レ住_レ名_ニ上_レ○同_レ年_ノ三月四日

別_レ而_レ不_レ及_レ遊_レ淨_レ勝_レ法_ニ淨_レ用

信_レ切_レ同_レ上_レ淨_レ遊_レ去_レ也_ニ相_レ勤

○同_レ年_ノ正月廿一日

大納_レ云_レ致_レ西_レ丸_ニ却_レ淨_レ徒_レ移_レ之_ニ部

淨_レ行_レ列_レ住_レ奉_レ之_ニ後_レ友_レ丸_ニ向



市書 ○同年十一月十八日法
 ○同十年二月十九日
 堂三角教市渡也市渡也
 ○同年四月二日法後三卷湯
 ○同年四月四日分市不例牙
 同十六日也後切市珍湯用 ○
 同年四月十八日市金使二年
 白銀三枚湯 ○同年八月五日
 格娘君市渡生市珍湯用

同月廿四日縮編三卷湯



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible.

